

## 平成 21 年度第 4 回川崎市政策評価委員会 摘録

- 1 開催日時 平成 22 年 3 月 26 日（金）午前 10 時 00 分～11 時 30 分
- 2 開催場所 明治安田ビル 2 階 第 1 会議室
- 3 出席者 委員 高千穂委員長、垣内副委員長、川崎委員、野口委員、水上委員、  
青木委員、杉橋委員、余郷委員  
事務局 総合企画局 三浦局長  
総合企画局都市経営部 土方部長  
総務局行財政改革室 原主幹  
総合企画局都市経営部企画調整課  
森田主幹、柳下主査、鈴木主任

### 4 議 事

- (1) 政策評価委員会の改善意見等を踏まえた市の対応状況について（報告）（公開）
  - (2) 平成 21 年度施策評価の検証等（案）について（公開）
  - (3) 職員意識調査の実施結果について（報告）（公開）
  - (4) 平成 21 年度事務事業総点検の実施結果について（報告）（公開）
  - (5) その他（公開）
- 5 傍聴者 なし
  - 6 会議内容

議事(1)政策評価委員会の改善意見等を踏まえた市の対応状況について（報告）

議事(2)平成 21 年度施策評価の検証等（案）について

高千穂委員長) 議事(2)については事前に資料を確認していただいたが、これを踏まえ、何か意見はあるか。

川崎委員) 別紙 5 の [試行的検証項目] の帳票での位置は、本来の検証項目と切り離し枠を別に設け、位置を最後（総括的コメントの前）に変更してほしい。

また、別紙 6 はチェックポイントの判定区分（※市で行う「施策進行管理・評価票」の評価結果に対し、政策評価委員会において、各項目の説明等が十分であるかなどを判定する区分で、「良」「可」「要改善」がある。）であるが、「要改善」については「良」「可」との区分が明確になっているが、「良」と「可」の区分については曖昧なものとなっている。これについては、十分か不十分かの程度が分からず主観で判断せざるを得ないため、どのように判断するかを委員間で意見を交換し、情報共有した方がよい。

高千穂委員長) 一番大事なものは、合格なのか、不合格なのかというところだ。別紙 3 の検証マニュアルでは、「要改善」から「可」とする具体的な事例が多くあるが、「要改善」から「良」となるための必要条件もあった方がよいのではない。例えば、別紙 3 の 2 頁に施策目標「音楽によるまちづくりを実現し、本市のイメージアップをめざす」という事例があるが、これが「可」から「良」となるにはどうすべきかなど、程度が分かるような指標があればよい。

また、3 頁の施策目標「児童生徒の確かな学力の育成」についてであれば、どれくらいの学校で、これを取り上げているか数値で示してもらえればよい。

「要改善」から「良」もしくは「可」とする基準のポイントとなるところは、「抽象的」か「具体的」か、また、アウトプットからアウトカムへと書かれているかといったところだと思う。

水上委員) 私も「良」「可」の使い分けが悩ましいと感じる。

チェックポイント①「目標等の具体性等」で目標、課題、概要の 3 つの項目のすべてがよいと「良」とするのか、それとも、それぞれでよいところがあれば「良」とするのか。これについては、施策進行管理・評価票で見本となると思われるものか、もしくは、概ね市民に説明責任を果たしていると思われるものとするかで迷ったところである。いずれの基準とするかで「良」となるものの数が変わってくると思われるが。

杉橋委員) 「可」の場合に、他都市での取組や事例を参考意見として紹介することは構わないか。

青木委員) 判定区分の文言からすると「良」と「可」の区別は結局「十分に」になっているかどうかのように思う。最終的に自分が判断する際には、「十分に」であるかどうかは、数値などで具体的な記載となっているかを判断しなければならない。

委員間で判断を平準化するためには基準をつくるほかない。

高千穂委員長) ある程度、各委員の主観に任せるほかないかと思う。

青木委員) 主観で判断せざるを得ないが、具体的な例や数値の有無で判断せざるを得ないかなと思う。それと、検証項目 1 (1) 「目標の妥当性及び分かりやすさ」は①「施策の目標は具体的かつ分かりやすいか」と②「解決すべき課題と施策の目標との関連性が分かりやすく記載されているか等」に分かれているが、①はともかく②にはプロセスも記入するようにしたほうがよいのではないか。

①の「施策の目標」でプランを記載し、②でプランを達成するためのプロセスを記載する。これに成果がどうであったかを記入することにより、関連した繋がりとして見えてくることとなるのではないか。

垣内委員) 数値が入っていると分かりやすいが、文化政策などでは数字だけでは説明できないものがある。記載の中でも市民に対しての説明責任を果たすためには、完璧な基準をつくるというよりも、数値であれば市民に説明がつく十分なレベルであればよいのではないか。

青木委員) 外部の我々からすると、数値目標があった方が理解しやすい。

高千穂委員長) 市民目線で見るということは、むしろ多種多様な見方を持つということであり、これに対し、なんでも数値化するというよりも、各委員それぞれの自主性にまかせて検証するということも必要ではないか。

ただ、それぞれの委員の市民感覚でそれぞれの見方のままであると、委員会が成立しなくなってしまうので、他の委員はこう考えているということ委員会場で共有し合うということによいのではないかと思うが、いかがか。

野口委員) 我々の作業は、市で行った評価に対し、評価すればよいのか。

高千穂委員長) 基本的には、市が行った評価が市民に分かりやすいものとなっているかどうかを市民目線で見ることであるから、もっとも低いレベルであれば文章が分かりやすいかどうかから始まって、最終的には、市がやるべきものなのか検証するところまでがある。現在の我々のレベルは、施策自体が妥当かどうかはまだで、施策進行管理・評価票に書いてあることが分かるか分からないかである。その施策を実施する意味があるかどうかは、その次の話となる。

野口委員) さきほどの杉橋委員の意見にあったアイデアを記入するかどうかはいかがか。

高千穂委員長) 評価自体は委員の考えに基づいて行い、評価票の分かりやすさなどを判断する。施策自体についての参考となる事例については、総括的コメント欄に記入していただくことでどうか。

森田主幹) 他都市の事例など本市の施策に参考となる意見についてはこのチェックシ

ートの総括的コメント欄に記入するというようお願いする。

高千穂委員長) さきほど青木委員からチェックポイント①及び②をプラン、プロセス、成果について記入することの提案があったが、各委員に、こうした問題意識を持っていただき、これを念頭にいれて評価していただきたい。そこで今回は先ほど説明があったとおり評価していくということでしょうか。

水上委員) 特に優れたもの、他の所属で紹介できる選りすぐりのものを「良」とする方針でいくのかどうか確認したい。

川崎委員) 判定基準を見ると「良」は、中々つけにくいというのが正直なところ。そうするとほとんどが、「可」になってしまう。ではどうしたら「可」が「良」になるのかというところを示さなければならないところだが、中々よいアイデアがない。

高千穂委員長) 判定基準の「良」の各チェックポイント共通の項の「他の模範とするに相応しい」というところは「より分かりやすい説明をしているかどうか」に置き換えてみてはどうか。これは、例えば、数量・数値であったり、アウトプットの的なものからアウトカムのなもの、経年的な時系列での比較など、より分かりやすい説明の工夫をしているかどうかということを見るということであれば、「可」ばかりということはある程度避けられるのではないか。現場のインセンティブを加味した上で、トータルでやっていくということであれば、こういうことになるのかなと思うがいかがか。

川崎委員) 今の高千穂委員長の意見を判定基準の一覧に反映させるべきではないか。

高千穂委員長) 運用で対応するという考え方もあるかもしれないが、「他の模範とするに相応しい」という基準であると、現場での混乱も多少招くということもありえるし、この表現に変えるということではいかがか。

森田主幹) 御意見のとおり、修正する。

垣内委員) アウトプットだけの記載というよりも、定量的な数値などのアウトカムの説明まで書いて「良」ということか。

高千穂委員長) ある程度アウトカムがイメージできるような表現、説明であれば、「良」

としてよいのではないかと思う。というのも、施策がすべて数値化できるとも思えない。

川崎委員) チェックポイント③「成果説明の具体性等」、⑤「参考指標の妥当性」の「良」の判定区分を見ると、アウトカムの説明、参考指標という明確な基準があり、これはこれでよいのではないか。

高千穂委員長) であれば、この表で言えば、「他の模範とするに相応しい」というところの表現を変えれば対応可能なのではないか。

青木委員) 別紙2のチェックシートにある2「成果の説明」について(2)③では「成果説明は施策課題全体を網羅しており」とあるが、これは、単年度だけではなく、次年度以降も継続して書かれているということによいのではないか。

高千穂委員長) 各事業をすべて説明するというのではなく、施策として分かればよいのではないか。

青木委員) 他の部門との協力なしでは、課題をクリアできないある施策について、「次年度以降は、他部門と協力して〇〇をやります」という記載が続けて書いてあるものがあつた。いつまでに何をやるのか書いてもらわないと「良」にならないのではと思うがいかがか。

高千穂委員長) それはそれでよいのではないか。

今回議論した部分について、各委員それぞれ頭に入れていただき、それぞれの判断基準で評価していただきたい。

### 議事(3)職員意識調査の実施結果について (報告)

水上委員) 設問にもあるが、自ら行っている評価を予算、事業の見直し、人員の配置につなげていく取組を今後すすめてもらいたい。昨今話題となっている事業仕分けは、外部評価、つまり第3者が行うものであるが、川崎市で実施している評価は行政が自ら行うものであり、できる限り具体的に取組んでほしい。

川崎委員) 予算、組織整備、人員配置につなげていけば、負担の軽減につながるもの

であり、また、評価を実施する意味もより感じられることになる。そういう意味でも、川崎市での評価というシステム全体にとっての課題であるかと思う。

高千穂委員長) 引き続き、市で実施した評価を政策評価委員会の場で議論していきたい。

議事(4)平成21年度事務事業総点検の実施結果について(報告)

議事(5)その他

高千穂委員長) 他に意見がなければ、質疑は以上としたいが、いかがか。

一 同) 異議なし。